



エコアクション21
環境経営レポート2021
(対象期間 43期 2020年9月～2021年8月)
2020年10月6日作成



伸光写真サービス株式会社

Tokyo, 2021

目 次

1.	会社概要	2
2.	対象範囲（認証・登録範囲）	3
3.	環境経営方針	4
4.	環境経営目標（今期43期及び中長期目標）	5
5.	環境経営計画（今期 43期）	6
6.	環境経営目標の実績値・取組結果とその評価（今期 43期）	8
7.	環境経営計画（次期 44期の取組内容）	10
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無	11
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	11



当社のSDGsとのつながり



材料等資源の有効利用



土壤汚染から地域を守る



水の利用効率を大幅に改善しきれいな排水に



気候変動対策(CO2削減)



さらなる電子化の促進



海洋汚染の防止

当社は電子業界の最先端技術を積極的に取入れ、人類・社会の進歩発展に貢献し全従業員の幸福を追求します。

当社は様々な分野のプリント配線板の試作品を製作しています。

私たちの製作しているプリント配線板は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

持続可能な地球・世界にするために、私たちに何ができるでしょうか！

1. 会社概要

所在地 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

設 立 昭和 52 年 7 月 1 日

代表者 代表取締役 峯村儀勝

資本金 3,450万円

環境管理責任者 柏倉 宏美

連絡先 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

TEL : 045(933)8311

FAX : 045(933)8318

事業内容 プリント配線板の製造、メタルエッチング及び
工業用精密マスクの製造

事業の規模 主要製品の生産量 / 出荷額 2.2t / 300百万円

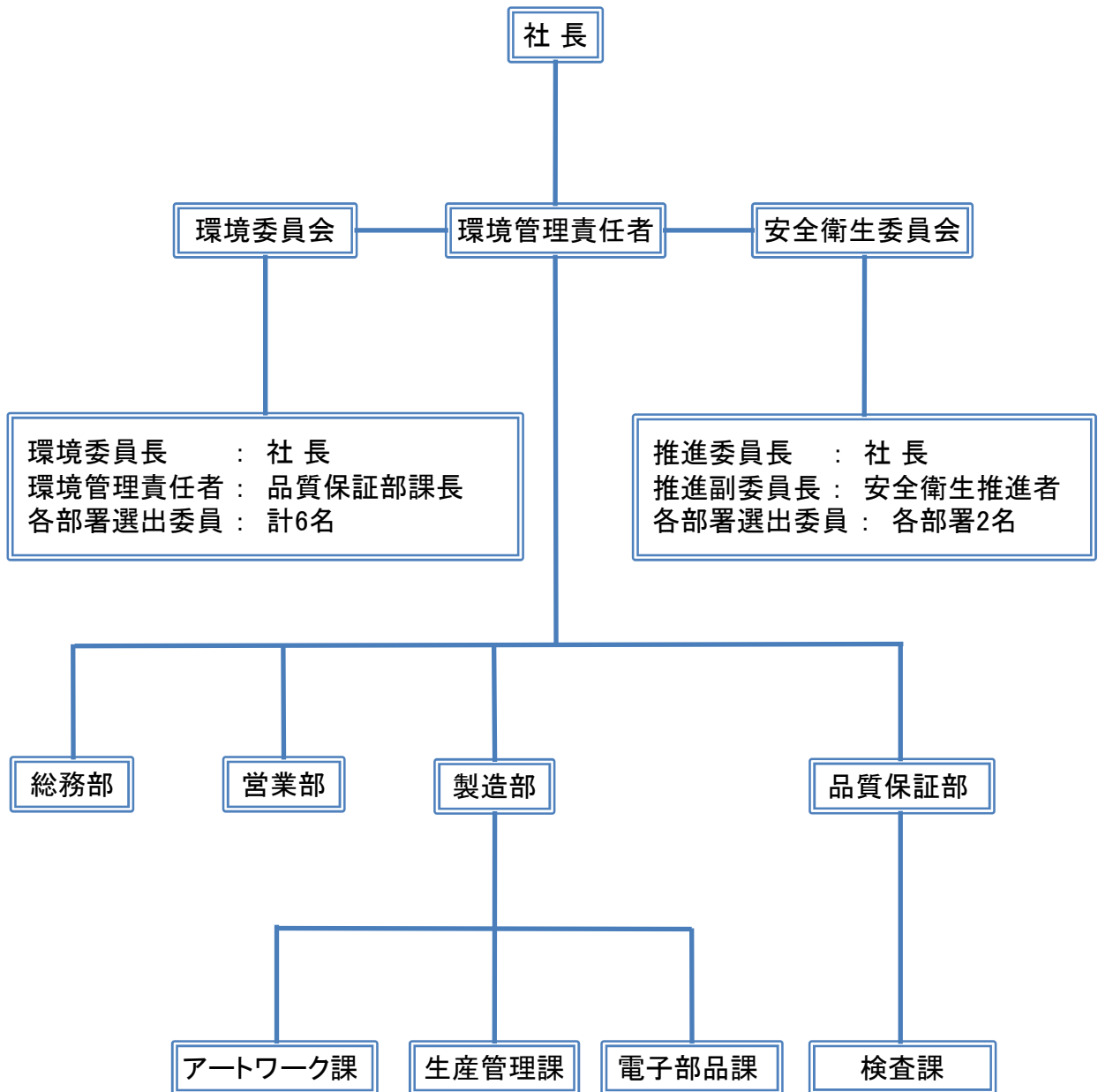
従業員総数 24名

床面積 660m²

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

全社(本社)環境管理組織(実施体制)

2021年9月1日現在



有資格者

特別管理産業廃棄物管理責任者 1名
A種除害施設等管理責任者資格 3名
安全衛生推進者 1名

3. 環境経営方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリンなどの削減を中心とした省エネルギー活動を行い、CO2の削減に努めると共にグリーン調達を推進します。
- ④ 環境に配慮した製品・サービス・生産活動及び製品品質の向上を通し、顧客や社会に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。
この環境経営方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日2005年06月20日
改定日2019年09月20日
伸光写真サービス株式会社
代表取締役 **峯村 儀勝**

4. 環境経営目標(今期及び中長期目標)

環境経営目的	環境経営目標/年	41期(2019年) 実績 前々期	42期(2020年) 実績 前期	3カ年計画		
				43期(2021年) 実績 今期	44期(2022年) 目標 来期	45期(2023年) 目標 再来期
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量 (Kw)	123,050	112,315	112,393 目標112,315 (42期比+0.07%)	112,393 (43期実績維持)	111,269 (44期比-1%)
	ガソリン使用量 (L)	1,892	1,319	349.38 目標1,306 (42期比-73.5%)	1,002 (42期比-24%)	1,279 (42期比-3%)
	二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	75,073	64,545	83,097.78 目標86,495 (42期比+28.7%)	83,098 (43期実績維持)	82,267 (44期比-1%)
	電力排出係数	0.571	0.544	0.729	0.729	0.729
資源のリサイクル(3Rの推進、廃棄物等の削減)	一般廃棄物 (Kg)	255	255.8	212.8 目標253 (42期比-16.8%)	210.7 (43期比-1%)	208.6 (44期比-1%)
	産業廃棄物 (Kg)	26,200	21,471	13,204 目標21,256 (42期比-38.5%)	21,256 (42期比-1%)	21,044 (44期比-1%)
省資源の推進	水使用量 (m ³)	1,287	1,130	1078.9 目標1,130 (42期比-4.5%)	1,079 (43期実績維持)	1,068 (44期比-1%)
	コピー用紙使用量 (枚)	42,500	45,000	41,500 目標45,000 (42期比-7.8%)	45,000 (42期実績維持)	44,550 (44期比-1%)
環境汚染の防止	化学物質の使用量・ 排出量の削減 (フィルム削減率 : 描画率%) ※廃酸・廃アルカリ削減	70.9	71.2	69.5 目標71.9 (42期比+2.4%)	71.2 (42期維持)	71.9 (44期比-1%)
生産活動での環境負荷の低減1	不良件数の低減(件)	ポカミス件数 43	ポカミス件数 22 (ポカ+技術的 59)	ポカ+技術的件数 72 目標30 (42期比+22.0%)	ポカ+技術的件数 36 (43期比-50%)	ポカ+技術的件数 18 (44期比-50%)
地域社会との協調・連携	環境ボランティア活動の実施(回)	1回実施	1回実施	1回実施 (目標 年1回 実施)	目標年1回実施	目標年1回実施
SDG'sの啓蒙活動	SDG'sの勉強会・ アイデア募集	SDG'sと環境活動 の繋がり宣言	SDG'sと環境活動 の繋がり宣言	勉強会1回 アイデア18件	勉強会1回 アイデア募集1回	勉強会1回 アイデア募集1回

5. 環境経営計画(今期)

環境経営目標	今期取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポカミス、技術的不具合50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電気量を削減する。 ・昼休み時間の照明電源OFFの徹底、エアコン設定温度の2℃上昇 ・コロナ対策の為、出勤時間を1時間遅らせ、業務時間を1時間短縮した。 ※新型コロナ対策のため、換気扇の増設、常時窓を少し開き、換気実施したため、省エネタイプのエアコンに更新完了しているが、使用量増大の懸念あり。
ガソリン使用量の削減 (L)	<ul style="list-style-type: none"> ・3台の電気自動車、ハイブリッド車の活用を促進する。 ・エコモードに設定で運転する。 ・発進時、急加速しない。 ・コロナ対策の為、客先訪問からWEB面談へ ・不良削減による協力会社間物品搬送回数の削減
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・主に電気量とガソリン使用量を削減し、CO2削減を図る。 ※電気事業者の排出係数変動に伴う増減は現時点では評価しない。
一般廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋の再利用を継続した。 ・外注業者から入る合紙、ビニール袋で再利用できるものは返却して再利用する。 ・段ボール、雑古紙はリサイクル業者へ活用。 ・緩衝材、封筒のリユース
産業廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム使用効率をアップする。 ・不良削減による廃棄材料の削減 ・金属類は分別回収し、リサイクルへ活用。
上水道使用量の削減 (m ³)	引き続き以下の項目を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理 ・使用量の把握を一ヶ月毎に監視 ・不良再製作回数削減による設備稼働削減 ・水道使用量の上昇傾向から漏水を検出し、漏水箇所の早期修理に役立てる
コピー用紙使用量の削減 (枚)	マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用 (社内データのソフト化の推進) <ul style="list-style-type: none"> ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施 ・資料は印刷を極力抑え、電子データで保存。
化学物質排出量の削減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量を削減に努める。
ヒューマンエラーの低減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001の促進を通じ、不良低減に努め、不良再製作件数を低減することにより原材料・電気・水道・ガソリン等の抑制に結び付ける
環境ボランティア活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見川清掃および近隣地域の清掃に取り組む。
SDG'sの啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の環境活動を通じ、SDG'sにどのように結びついているか勉強会を実施 ・身の回りで実施可能なSDG'sの取組を職場で話し合う

6. 環境経営目標の実績値・取組結果とその評価(今期)

分類	環境経営目標	43期 目標値	43期 実績値	取組結果 (+が未達)	評価
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量の削減 (Kw)	112,315 (42期実績維持)	112,393	+0.07%	×
	ガソリン使用量の 削減(L)	1,306 (42期比-1%)	349	-73.5%	○
	二酸化炭素排出量の 削減(Kg)	86,495 (42期実績維持) <small>※排出係数42期0.544→43期0.729</small>	83,098	-3.9%	○
資源のリサイクル(3Rの推進、廃棄物等の削減)	一般廃棄物の削減 (Kg)	253 (42期維持)	213	-16.0%	○
	産業廃棄物の削減 (Kg)	21,256 (42期比-1%)	21,471	+1.0%	×
省資源の 推進	上水道使用量の削減 (m ³)	1,130 (42期維持)	1,079	-4.6%	○
	コピー用紙使用量の 削減(枚)	45,000 (42期維持)	41,500	-7.8%	○
環境汚染の 防止	化学物質 排出量の削減 (描画フィルム 利用率(%))	71.9% (42期比-1%)	69.5%	+3.5%	× 注1)
生産活動での 環境負荷 の低減1	不良件数 の低減(%)	ポカミス・技術的件数 30件 (42期比-50%)	72件	+144%	×
地域社会との 協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	年1回実施	10月実施	実施	○
SDG'sの 啓蒙活動	SDG'sの勉強会・ アイデア募集	勉強会1回 アイデア募集1回	勉強会1回 アイデア18件	実施	○

注1) コロナによる受注量が減少したため、効率的なフィルム描画が出来なかった。

2020年10月 鶴見川・会社周辺清掃のときの写真です



SDG'sの啓蒙活動から生まれた活動結果

● <SDG'sアイデア>

- ・マイばし、マイ水筒、弁当で自然保護を
- ・ゴミは分別してリサイクル率を向上
- ・ガソリン車より電気自動車、ハイブリッド車を活用
- ・電源をこまめにOFFで電力削減
(全照明LED化、休憩時間照明OFF、パソコンスリープ5分設定)
- ・サステナブル食品の購入
- ・エコバックの常時携帯
- ・資料の電子保存化(紙出力の削減)
- ・使用済み切手の活用
(生保会社で開発途上国へワクチン補助)
- ・家庭内で廃棄している梱包材を会社で利用
- ・自動販売機をSDG's対応に
(横浜港清掃へ寄付)



<設置した自動販売機>

● 環境省:「持続可能な開発目標(SDG's)の推進」に取り組み事例として協力

<https://www.env.go.jp/policy/sdgs/>

SDGsへの挑戦 - それぞれのきっかけからメリットまで! -

事業者	伸光写真サービス株式会社		
所在地	神奈川県横浜市	業種	電子回路製造業
設立	1977年	環境経営継続期間	16年
従業員数	25名	SDGs取組開始年	2017年



> 環境や地域社会を意識した活動が社会的な評価を受けることにより、企業価値が高められた

> 取組内容を絞れば、業務管理が煩雑になることはない

1. SDGsを意識した取組の現状と経緯

■ 取組の現状

- ・エコアクション21 (EA21) に基づいた環境経営を継続。省エネによるCO₂削減や、廃棄物の適正処理、不良品削減による材料の無駄の削減などに取組んでいる。
- ・残業時間の削減や女性の雇用促進を進め、近隣(鶴見川)の清掃活動も行っている。

■ 取組を始めた経緯

- ・EA21におけるCO₂削減への取組が、SDGsの取組に結びつくと考えた。
- ・近年、大震災や豪雨災害などが頻発し、身近な川である鶴見川の氾濫などの災害の懸念も、きっかけになった。

2. SDGsを意識した取組の意義・効果・変化

■ 取組の意義

- ・SDGsの取組を通して、環境問題に寄与できる。
- ・小さな事例の積み重ねで、子供たちの将来を明るくできる。

■ 取組の効果、変化

- ・「省エネの達人 企業編」というテレビ番組で、省エネの取組と実績が高く評価されたことがあった。省エネに積極的な企業としての知名度が向上し、新規取引につながった。
- ・地域や社会を意識した事業活動により、横浜市から「横浜型地域貢献企業」の認定を受けたことが評価され、金融機関から金利優遇や追加的な融資を受けることができた。

3. 取組の進め方

- ・既存業務を整理して、SDGsの目標と対応させた。
- ・社内アンケートをとり、SDGsの認知度を把握した。
- ・従業員にSDGsに関するYouTube動画を視聴してもらい、身近なテーマであることを知ってもらった。
- ・取組内容を絞り込めば、生産管理や品質管理などの管理面が煩雑になることはなかった。



自社の活動とSDGs

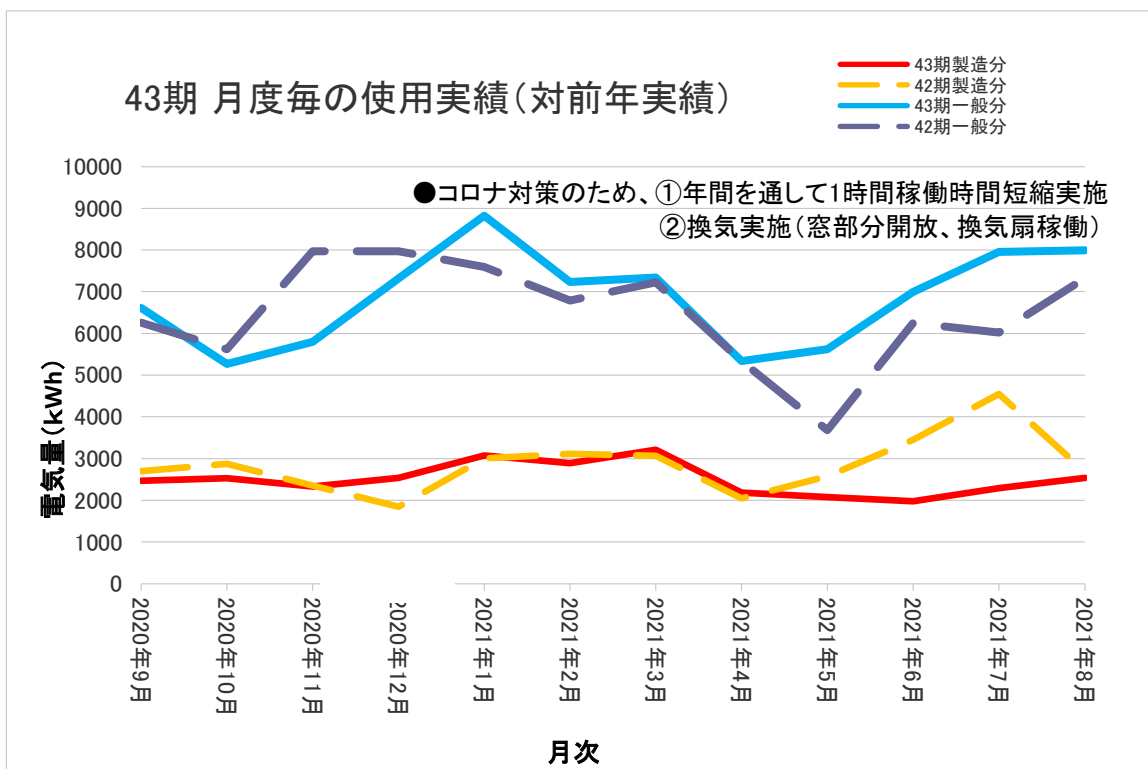
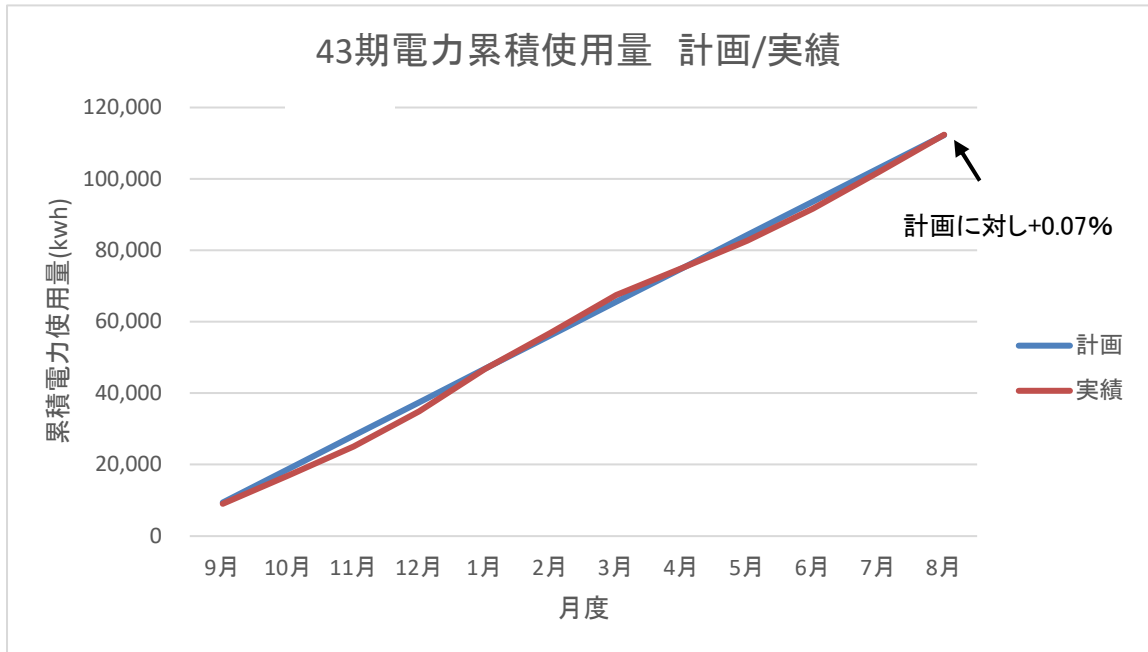
(環境省ホームページ: 持続可能な開発目標より)

- ・動画撮影も参画し、事例集の内容を深掘しています。

SDGsへの挑戦 伸光写真サービス株式会社
<https://www.youtube.com/watch?v=LupvwI0JRJU>







今期の電力使用量の目標値と実績のグラフ

※ 当社のCO2排出量は90%が電力使用量依存のため、電力使用量のグラフを示します。



7. 環境経営計画(次期の取組内容)



環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
電力使用量の削減 (Kw)	<p>目標値: コロナ対策で減少した電力量を宣言解除後の経済状況を前提に今期は前期を維持することを目標とし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポカミス50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電力量を削減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 資源利用の効率低下 支出増加 ・機会 CO2削減により温暖化抑制に寄与 	<p>気候変動への対策</p> 
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	<p>目標値: コロナ対策で減少した電力量を今期は維持</p> <p>※本項目の電力量の影響度は90%である(排出係数が大きくなっているが、電力量維持で二酸化炭素排出量に寄与する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来期はコロナ対策も落ち着き、42期と同程度の営業活動が可能と想定し、43期の排出量の維持を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 気候温暖化により自然災害甚大化。鶴見川氾濫等被災の可能性が高まる ・機会 CO2削減により温暖化抑制に寄与 	<p>気候変動への対策</p> 
ガソリン使用量の削減 (L)	<p>目標値: コロナ対策の影響が来年には解除されると想定し、年内は43期維持、来年より42期比-1%とした</p> <p>※本項目のCO2排出量への影響度は10%である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコモードに設定で運転する ・発進時、急加速しない ・ガソリン車1台を廃車し、全てハイブリッド車・電気自動車のみとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク ガソリンペーパーが、PM2.5や光化学オキシダントとなり環境を破壊する呼吸器系や循環器系などの疾患リスクを上昇させる ・機会 CO2削減により社会貢献排ガス低減による社会貢献 	<p>気候変動への対策</p> 
一般・産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値: 前期比-1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄プラごみの影響を認識し、ビニール類の削減を努力義務とする。 ・今まで廃棄してきたビニール類の社内リサイクルを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク マイクロプラスチックの有害物質吸着による生態系への影響 ・機会 安全な食材の維持 	<p>海洋汚染の防止</p> 
産業廃棄物の削減 (Kg)	<p>目標値: 前期比-1%削減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップしフィルム使用効率をアップする ・再製作の回数を減らし、廃材とする材料の量・使用する薬液の量を低減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 基板材料の購入量増加により流通においてもCO2排出量が増加 不良増加による廃棄物増加 ・機会 資源の有効利用 	<p>資源の有効利用</p> 
水使用量の削減 (m ³)	<p>目標値: コロナの影響で減少した水使用量を今期維持する</p> <p>そのため以下の項目を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理する ・継続して使用量を一ヶ月毎に監視する ・設備冷却水の循環化を検討する。 ・再製作の回数を減らし、水の無駄使いを削減する 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク 大量の水排出により有害化学物質の流出が増加し生態系に影響 ・機会 生態系を維持 淡水の持続可能な供給を確保 	<p>水の利用効率の改善</p> 

環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
コピー用紙使用量の削減 (枚)	目標値: コロナの影響で減少した紙使用量を 今期維持する ・マルチファンクションプリンタによる スキャナーの有効活用 ・ISO9001の促進を通じ、ドキュメントの 電子化を促進する ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの 継続実施 ・コピーが必要な資料を厳選する	・リスク 森林減少による土地劣化 の加速、生物多様性の 崩壊により地球環境が 崩壊へ進む ・機会 陸域及び内陸淡水生態系 の自然循環により生物 多様性を回復し豊かな 自然を取り戻す	森林再生の大幅増加 
化学物質排出量の削減 (%)	目標値: 使用量を42期実績を目標にする ・廃プラごみ削減のため、プラスチック フィルムへの描画率をアップし、フィルム 作成時の溶液使用量を削減する	・リスク 規制化学物質管理の 不順守で行政の管理が 厳格化 操業停止 ・機会 行政の信頼向上	水・土壌汚染の防止 
ヒューマンエラー及び技術的課題の改善による再製作の低減 (%)	目標値: ヒューマンエラー及び技術的課題の 改善により再製作を前期比-50% 低減する。 ・ISO9001の促進を通じ、仕事のルールを 順守し不適合を低減する ・業務内で不良になりかけた事案を 改善台帳に登録し、ポカミス・技術的 課題の改善の糸口に活用する。	・リスク ヒューマンエラーによる 再製作の増加で使用材料 、電気量、水の使用量が 増加し利益が減少 お客様納期の不順守 ・機会 納期順守、お客様の信頼 向上、資源の無駄削減	資源の有効利用 
環境ボランティア活動の実施	引き続き、地域社会との協調として ・「鶴見川清掃活動」及び 会社周辺の 清掃をおこなっていく。 ・地域行事に協賛企業として参加する	・リスク - ・機会 地域周辺住民への環境 意識の向上 環境への貢献・PR	環境面の良好なつな がりで環境影響を軽減 
SDG'sの 啓蒙活動	SDG's: 持続可能な開発目標について意識し 推進することで子供たちの将来と働く場所を 維持する。 ・定期的に勉強会を実施 ・勉強会の後、職場でのアイデアを募集	・リスク 異常気象による河川氾濫 甚大な暴風雨による被災 ・機会 温暖化の抑制 子供たちへ明るい将来 働く職場の維持	持続可能な企業へ発展 

8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認・評価結果、違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、違反はなく遵守されています。
 また、関係当局より違反・訴訟等の指摘は創業以来ありません。
 (主要関連法規のみ掲載します)

主な適用法規制	内 容	遵守状況
下水道法 水質汚濁防止法	公共下水道排水の定期分析異常なし(横浜市の監査問題なし) 銅、アンモニアの排出基準	○
廃棄物処理法	指定回収業者契約書等再確認済み、業態変更に伴う再契約実施 (電子)マニフェストの管理	○
フロン排出抑制法	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化(設備点検済み)	○
横浜市条例	A除外施設問題なし 資格者保有	○
資源有効利用促進法	使用済み物品等及び副産物の発生抑制並びに再生資源及び再生部品の利用の促進に関する所要の措置を講ずる	○
製品含有化学物質管理(業界標準)	RoHS2/J-Moss、REACH SVHC(含高懸念物質) コンゴ民主共和国等産出の紛争鉱物	○
消防法	対象:危険物。消火器定期点検・期限監視 危険物安全対策、横浜市火災予防条例	○
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則(特化則)	○
家電リサイクル法	小売業者及び製造業者等による特定家庭用廃棄物の収集及び運搬 に関し、適正かつ円滑に実施するための措置を講ずる	○
自動車リサイクル法	自動車製造業者等及び関連事業者による使用済み自動車の引き取り 及び引き渡し、再資源化等を適正かつ円滑に実施するための措置	○
化学物質排出把握管理促進法	平成20年改正で塩化第二鉄が該当物質となり、2020年度分より 届出開始。過年度5年分(2015年度分～2019年度)の届出も完了	○

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は売上高が前期比-8.74%減少する中、

- ①コロナ感染対策の為、前期後半より休業および業務時間1時間短縮実施
- ②不良発生+22%増加による電気、水、材料の使用量増加
- ②換気実施徹底による省エネタイプエアコンの電気量増加

など、増加要因、削減要因があったものの通期で+0.07%の電気量増加に抑えられました。
※当社のCO2排出量における電気量の依存度は約90%となっています。

また、上記に加え、営業車の使用も電気自動車・ハイブリッド車を優先的に使用し、顧客訪問からWEB会議へ、協力会社への搬送業務も極力抑えたおかげで、前期比73.5%削減と大きな成果を出せました。

さらなる継続的改善として次の取り組みを行います。

前期より取り組んでいる持続可能性への新しい物差しSDG'sをさらに考慮に入れ環境対策を推進します。

1. 基板材料削減を主とした資源の有効利用のために、次期もKPI(指標)としてヒューマンエラーと技術的課題による不良件数低減率の設定をします。
また業務内で不良になりかけた事案を改善台帳に登録し、ヒューマンエラーの改善の糸口に活用します。
これにより基板の再製作を減らし電力使用量、水使用量、産業廃棄物も削減します。
2. 災害時の影響を低減するために、事業継続プランの運用を強化し、緊急時の内部・外部への影響を軽減します。
3. 「リスクと機会」の力量・認識の強化を通じ、法令・規制遵守の確実性を向上します。

引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていきます。
また地域行事に協賛企業として参加します。

今後も持続可能な企業への発展を目指し、SDG'sを意識しながら、環境へ配慮した企業活動を継続してまいります。

2021年10月6日
代表取締役

峯村 儀勝